

論文 内 容 要 旨

しめい 氏名	えんどうのりこ 遠 藤 教 子
学位論文題名	Factors associated with enrollment and adherence of outpatient cardiac rehabilitation in Japan
<p>心臓リハビリテーション（以下心リハ）は、運動耐容能、生活の質（Quality of Life）、そして、生命予後の改善といった効果が示されている。我が国では、心疾患患者への心リハ実施率は諸外国に比較して低い。実施施設においても、参加率並びに継続率は低いことが報告されている。本研究の目的は、外来通院型心リハにおける参加関連要因と、継続関連要因を明らかにすることである。</p> <p>方法：本研究は症例対照研究で、対象者は一市中病院において、2010年3月から2年間に入院し、心リハを施行された544人である。外来型心リハに参加した患者は78人（参加群）であり、その内3ヶ月外来型心リハを継続できたのは23人（継続群）であった。対照群は、外来型心リハ非参加者から無作為に抽出した179人である。調査項目は患者基本属性、心疾患の詳細、冠危険因子、内服加療内容、心機能関連項目、リハビリ関連項目等であり、電子カルテ、心臓カテーテルデータベースから転記した。</p> <p>分析1では、心リハ参加関連要因について解析した。参加群と非参加群を単変量解析にて比較し、有意項目に基本属性を加えて多変量解析を実施した。分析2では、心リハ継続関連要因について解析した。継続群と非継続群の特性を単変量解析にて比較し、有意項目に基本属性を加えて多変量解析を実施した。</p> <p>結果：分析1では高齢（オッズ比 [以下 OR] , 0.96; 95%信頼区間 [以下 CI] , 0.93-0.98; $p=0.003$）、病院までの距離（OR, 0.97; 95% CI, 0.95-0.99; $p=0.014$）が有意な参加関連要因であった。分析2では、虚血性心疾患（OR, 6.03; 95% CI, 1.62-22.5; $p=0.007$）、安定剤等の内服（OR, 4.14; 95% CI, 1.07-16.0; $p=0.039$）が有意な継続関連要因であった。</p> <p>考察：外来通院型心リハの参加関連要因として、社会的要因（高齢、病院までの距離）が参加阻害因子として挙げられた。継続関連要因としては、身体的要因（虚血性心疾患、安定剤等の内服）が継続促進因子として挙げられた。外来通院型心リハの参加、継続を向上させるためには疾患の詳細だけでなく、患者のセルフマネジメント力や病院へのアクセス、心理的状态を把握し、参加しやすい包括的なシステムを構築することが必要である。</p>	

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。

学位論文審査結果報告書

平成27年3月9日

大学院医学研究科長様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告致します。

【審査結果要旨】

申請者：疫学・地域保健分野 遠藤 教子

学位論文名：Factors associated with enrollment and adherence of outpatient cardiac rehabilitation in Japan. (日本における外来型心臓リハビリテーションの参加関連要因と継続関連要因についての検討)

心臓リハビリテーションは、運動耐容能、生活の質 (Quality of Life)、生命予後の改善といった効果が示されている。しかし我が国では、心疾患患者での実施率は諸外国に比較して低い。実施施設においても、参加率並びに継続率は低いことが報告されている。そのため、本研究では外来通院型心臓リハビリテーションにおける参加関連要因と、継続関連要因を検討した。外来通院型心臓リハビリテーションの参加関連要因として、社会的要因 (高齢、病院までの距離) が参加阻害因子として挙げられた。継続関連要因としては、身体的要因 (虚血性心疾患、安定剤等の内服) が継続促進因子として挙げられた。この研究は、外来通院型心臓リハビリテーションに参加しやすい包括的なシステムを構築するのに役立ち、そして予後の改善につながる可能性がある。

申請者は審査委員からの指導・助言に対して、適切に回答した。臨床的に意義のある研究であり、本論文を学位論文に値すると判断する。

論文審査委員

主査 竹石恭知

副査 葛西龍樹

副査 佐戸川弘之